

## らっこ児童クラブ開所式



今年4月に開所した「らっこ児童クラブ」の開所式が行われ、児童たちは、日頃お世話になっている地域の人や学校関係者を招き、歌などを披露しました。

「らっこ児童クラブ」は、大規模化する「ほうこ児童クラブ」から分割されたもので、放虎原小校区で3か所目となります。現在43人の生徒が利用し、楽しく安心できる児童クラブを目指して、保護者と指導員が力を合わせて運営しています。

市では、放課後児童クラブの施設整備を計画的に進めており、今回の開所です市内の児童クラブは26か所目となります。

5/16

らっこ児童クラブの開所式を行いました

## おおむら市民のつばさ



長崎空港上海線の利用促進を図るため、上海・無錫・蘇州を巡る団体ツアー「おおむら市民のつばさ」を実施しました。

久保副市長を団長とする58人の参加者の皆さんは、友好都市である上海市閔行区を訪問し、友好パーティを行うなど歓迎を受け、交流を深めました。2、3日目は、太湖のほとりの街「無錫」、東洋のベニスと称される「蘇州」、活気あふれる「上海」の観光地を巡りました。4日目は、ツアーの目玉である「上海万博」を見学し、4泊5日の旅を満喫しました。

5/17~21

おおむら市民のつばさを実施しました

## 大村市史シンポジウム「歴史が輝くとき」



大村市史シンポジウム「歴史が輝くとき」をさくらホールで開催しました。これは、平成24年の市制施行70周年に合わせて、新たな市史の編さんを目指すもので、その一環として行い、会場には約280人が訪れました。

元中央大学教授藤野保氏を講師に迎え、「大村藩研究に因って60年」と題しての講演の後、脚本家の市川森一氏、長崎大学名誉教授の後藤恵之輔氏、大村史談会副会長の久田松和則氏に加わっていただきパネルディスカッションを行い、郷土の歴史の深さに思いを馳せました。

5/23

大村市史シンポジウムを開催しました

## 洪水ハザードマップ等図上確認会議



梅雨・台風の季節を前に、防災関係機関の連携の強化を確認する、「大村市洪水ハザードマップ等図上確認会議」を、市コミセンで行いました。

会議では、県・消防・警察の担当者へ市が策定した水害・土砂災害を対象とした「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」を説明。また、洪水ハザードマップ・土砂災害危険区域図をもとに、予想される災害の対応などについて協議され、梅雨期の大雨などによる災害に備え、関係機関相互の連携強化を再確認しました。

6/2

梅雨期を前に連携強化を再確認